## = 365日のカウントダウン =

第 20 回定期中間大会、新型コロナウイルス感染防止対策を施しながら久々の対面形式で開催し た。代議員、特別代議員、傍聴、中央本部役員等あわせて 917 名。それでも傍聴者数を制限したこ とから例年の 1200 名程度からすれば 300 名ほど少ない。

大会2日目の9月9日開会前、ステージに座る私に、おもむろに近づいてくる人がいる。基幹労 連N潟県本部のH事務局長、「ご安全に。これ、お見舞いです」と、袋を渡された。中身は、「ごっつ あん味噌」。後に調べてみると新潟海洋高校相撲部開発の力士味噌。宣伝文句には「鶏皮とにんにく を炒め味噌で和えました。にんにくの香りが食欲を刺激します。鶏皮の旨味が口の中に広がり箸が 止まりません。紙容器の角のお相撲さんの絵を切ると、紙相撲の力士に大変身!」とある。あっ、 先月の委員長メッセージで右膝負傷の愚痴を綴ったからか…。そういえば、大会会場で会う皆さん に、膝大丈夫ですか、気を付けて、と声をかけられたな~。皆さん、ご心配かけてすみません。H 事務局長、力士とまではいきませんが、しっかり蹲踞(そんきょ)できるよう手術して復活しますよ。 ありがとう。

そんな私事の大会の思い出は別にして、各議案も満場一致で確認いただき、いよいよ第11期2年 間の後半年がはじまった。前半年での最大の取り組みは、言うまでもなく第26回政策実現活動、そ してAP22春季取り組み。各位の心合わせと協力で、それぞれに成果を上げた。

これを礎に、後半年は政策実現活動の総括、AP23春季取り組み、そして産業・労働政策中期 ビジョンの見直し等、諸課題に臨んでいく。大きく揺れ動く国内外情勢の中で、総仕上げの一年と なるが、各加盟組合・構成組織、県本部・県センターと力をあわせ、第20回定期中間大会で確認し た活動方針のもと、確実に、着実に、一つひとつの課題を仕上げていかなければならない。

そして、来年9月には基幹労連発足20周年を迎える。次の高みをめざしていく大きなイベントも 待ち構えている。そこに向けた一歩一歩は、まさに365日のカウントダウンでもある。

365 日??…、なんか歌にあったよな~。AKB48か、365 日の紙飛行機。歌になぞらえて、後 半年に向けた想いを・・・

「朝の空を見上げて 今日という一日が 笑顔でいられるように そっとお願いした」 🏞 活動を振 り返り、評価と課題を整理し、肩をたたき合える、そんな明日をつくりたい。

「時には雨も降って 涙も溢れるけど 思い通りにならない日は 明日がんばろう」 🎓 辛い時こそ 仲間を信じ、支え合い、足らざるを補うのが労働組合。がんばらんば!

「人生は紙飛行機 願い乗せて飛んで行くよ 風の中を力の限り ただ進むだけ」 🎓 with/after コ ロナ、DX、GX・カーボンニュートラル、大転換期の中だけど、働く仲間と家族の笑顔(幸せ)を つくるため。

「その距離を競うより どう飛んだか どこを飛んだのか それが一番 大切なんだ さあ 心のまま に」🕝 誰一人取り残さない運動、すべての取り組みは、常にど真ん中に人を据えること、1 人の百 歩より 100 人の一歩を大切に。

「星はいくつ見えるか 何も見えない夜か 元気が出ない そんな時は 誰かと話そう」 🏞 基幹労 連 763 構成組織、輝く星はいくつもある。少し疲れた星があったなら、部門・部会の垣根を越えて 声をかけよう、みんな仲間だ。

「人は思うよりも 一人ぼっちじゃないんだ すぐそばのやさしさに 気づかずにいるだけ」🎓 272,804人の仲間がいる。その家族もいる、OBだって。相手の立場に立って物事を考え、行動。組 合役員ならできるはず。わが身を守り、仲間を守り、家族を守る、そして、働く職場を守り続ける。

「飛んでいけ!飛んでみよう!」 🎓 まだまだ回る私たちの好循環。 結成 20 周年・つなぐ架け橋、 第11期後半年。

ご安全に

2022年10月1日

日本基幹產業労働組合連合会

中央執行委員長 神田 健一